

# 知的生命体って？

とある世界的な物理学者が、生前に受けたインタビューで「地球以外に知的生命体がいる可能性はありますか」と質問されました。

この質問に対して物理学者は「地球に知的生命体なんていませんでしたか？」というジョークを返したそうです。今回はこのエピソードを取り上げ、「高等生物」や「知的生命体」とされる人類の歴史を俯瞰し、人権の状況について考えてみましょう。

人類の歴史は、猿人から数えても高々数百万年、文明らしきものが芽生えたのは数万年前と言われています。もちろん、その間ずっと人権という概念は存在せず、狩猟や、採集中心の小さな集団による生活でした。やがて、生活圏を広げ、農業が起こり集団も大きくなり、人々の間で格差が生まれたとされています。さらに、

文明が発達する過程において、一握りの人間が他を支配するという社会が長きにわたって続きました。

現在の、法治国家・民主主義・個人の人權などの概念が生まれたのは、人類史から見れば本当に最近のことです。第二次世界大戦後、1948年に国連で採択された世界人權宣言で「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、尊厳と権利とについて平等である」と宣言されたのは、ほんの70年ほど前です。

また、日本において「すべての国民は法の下に平等である」ということが憲法に定められたのも第二次世界大戦後です。ここにきてようやく人類は個人の置かれた状態に何の注釈もつけずに、人權を尊重するべきであるという共通理解を得たと言ってもいいのではないのでしょうか。

冒頭の物理学者の返答は、

人權のことを念頭に置いて答えたのではないかもしれませんが、知的生命体の定義の仕方はいろいろあるでしょう。ただ、人權という視点で見た場合、今の人類はその呼び名に値すると言っていないのでしょうか。

事実、世界中で様々な人權課題が解決されないまま残っており、新たな問題も生じています。人類史の長大な歴史的スパンでみれば、人類の人權確立に向けた歩みは、やっとスタートしたばかりなのです。残念ながら今は、すべての人の人權が保障されているとは言い難いですが、その現実を理解し、人權が尊重される社会の実現に向けて、少しずつでも歩みを進めていきたいと思います。

市人權推進課(教育庁舎1階)  
☎ 32・2122  
FAX 33・3525  
Mail:jinkensuishin@city.komatsushima-i.tokushima.jp

## 市民文芸 花みずき歌壇 (363) 松並敦子・選

消費税上がりて今日で三日経ち買物行かず僅かな抵抗

田浦町 太田カツミ

寝の足りて締切り間近の歌を詠む午前三時のコーヒー一杯

江田町 深田 伴子

田の岸を真っ赤に染めし曼珠沙華風さわやかに秋深みゆく

赤石町 田原トシ子

ベッドより見上ぐる空は四角にて黒雲走る台風近し

横須町 福島 夢栄

木々の葉は風が吹く度ひらひらと秋の終りは何かさみしい

瀬川町 松下 玉枝

宵祭り嫁に手引かれ抽選場へ五等ティッシュで今年も同じ

横須町 三宅 敏恵

道路ぞい野菜畑で花苗がポツポツとひとり生えせり

坂野町 橋本千代乃

初めての尾道の旅は大渋滞妻の笑顔に一杯のラーメン

田浦町 西 教明

どんな歌が好きだったのかどの本を好んでいたか父を知らない

横須町 山崎 泰子

水害の怖さを画像にまじまじと見つめ進む温暖化を憂う

立江町 湯浅かや子